

が衰えると、食べ物にむせたり、誤嚥(唾液

に、舌や顎の筋肉が衰えていないかチェック

して、どんなリハビリテーションに取り組む

ムで検討しています」。さらに同

咀嚼機能に問題がある場合は、私たちが入 鏡(VE)検査などを行います。その上で を用いて飲み込む機能を調べる嚥下内視 の衰えた患者さんに対し、まずは、内視鏡

れ歯など口腔内の治療を担当します。さら

が、加齢などにより嚥下(飲み込む)機能

食べることは人生の楽しみである。だ

摂食嚥下障害をサポー多様な診療科が関わり



SPECIAL REPORT

口から食べる幸せを、 チームで守る。

摂食嚥下障害特集

患者さんはそれでもいいと、手術を選択さ

反面、発声の機能を失ってしまいます。この する手術です。誤嚥を完全に封じ込める

れました。今では一日3回、食事を楽しみ、

うと、喉にメスを入れ、気道と食道を分離 統括部長)に話を聞いた。「これは簡単に言 手術を執刀した、都築秀典(耳鼻咽喉科

> ローチが必要です。患者さんを中心に据え よって起こるため、診療科を横断したアプ はなく、器官の機能低下や何らかの病気に 食嚥下障害は単独で引き起こされるので 関わるのは珍しいのではないだろうか。「摂 療に携わっている。これほど多くの診療科が 科などの専門医たちも摂食嚥下障害の治 院では、腎臓内科、外科、脳神経内科、皮膚

院の強みだと思います」と齊藤は話す。 て、必要な医療をすべて結集できるのは当 が、ある決断をした。それは「話すことがで 的な誤嚥に苦しんでいた91代の男性患者 そんな状態から脱するために、昨年、慢性 る〈誤嚥性肺炎〉を繰り返すようになる。 り、やがて、高齢者の命に関わる病気であ や食べ物が気管に入ること) するようにな

能を取り戻す」ことだった。この誤嚥防止 きなくなってもいいから、手術して食べる機

さまざまな診療科、専門職の力を結集し、 飲み込む機能の衰えた患者をサポートする。

BACK STAGE

在宅療養している人の 〈食べる楽しみ〉も守る。

- ●食べることは人生の楽しみであ り、健康の原点である。嚥下機能 が衰えると、体重減少、低栄養 脱水、さらに誤嚥性肺炎に繋がっ ていく。
- ●岡崎市民病院はその重要性を 熟知し、院内に多様な専門医、専 門職が連携してサポートする体制 を構築してきた。そしてその活動 を地域へと広げつつある。同院が ロールモデルとなり、在宅療養す る人々の嚥下機能や口腔環境 栄養状態を守る取り組みが根づ いていくことに期待したい。



〈食べる機能〉の改善をめざす 齊藤はまた、院内に組織された多職種

を考え、どんな姿勢や食べ方であれば、安全 ています。管理栄養士と一緒に食事の形態 の回復を促す訓練を担当するとともに、衰 当するのは、言語聴覚士の長尾恭史と田積 守るために努力しています」(齊藤)。 3つの側面から、患者さんの食べる機能を えた嚥下機能を補う食事の方法を提案し 匡平である。「私たちは主に、飲み込む機能 テーション、口腔ケア、栄養サポー 嚥下栄養サポートチームでは、嚥下リハビリ 多職種の関わりが非常に重要です。摂食 による〈摂食嚥下栄養サポー しくはP.参照)〉のリーダーも務めている。 「嚥下障害に対しては、医師だけでなく そのなかで嚥下リハビリテーションを担 トチーム(詳

サポート活動に邁進していこうとしている。 ですね」。〈口から食べる幸せ〉を、院内から 会を開催しています。そうした取り組みに に出向き、食事のアドバイスをしたり、 看護師や言語聴覚士などが介護施設など いんです。すでに摂食嚥下障害看護認定 療の現場でも継続してサポ-に帰ると元に戻る患者さんが数多くいらっ 中に嚥下機能がかなり改善しても、自宅 に地域へと広げていく考えを持つ。「入院 メンバーたち。齊藤は、その取り組みをさら ら食べる機能〉を守るために力を尽くす もっと力を入れ、地域の方たちを支えたい しゃいます。そうならないように、在宅医 多くの診療科と専門職が関わり、〈口か トしていきた

て関わっている。齊藤輝海(歯科口腔外科

〈咀嚼(食べ物を噛む)〉機能の専門家とし 下障害に関わるのに対し、歯科口腔外科は

て、地域高齢者のオ

実践。さらに、市民講座などを通し

歯科衛生士が中心になり、口腔機能

を防ぐために専門的なケア

摂食嚥下栄養サポ 倍に上がるともいわれる。 変はないか、飲み込めない原因が隠れていな うに耳鼻咽喉科では喉の機能を診て、病 元気に暮らしていらっしゃいます」。このよ

要介護認定が2.倍、総死亡リスクが

ることをヘオ・

いう。同じように、口腔機能が低下す え、虚弱になった状態を〈フレイル〉と ●高齢になり心身の機能や活力が衰

いかを診断し、患者の希望を最優先にして

適切な治療に繋いでいる。

耳鼻咽喉科が〈喉〉の専門家として、嚥

統括部長)は次のように話す。「嚥下機能

多くの専門職が力を合わせ

が衰えているので、しっかり食べて栄養をと ることが基本です。その点、当院では栄養 している。「やはり誤嚥を繰り返す方は筋力 トチームが一緒に活動しているのでと

ても心強いですね」と田積は補足する。

中日新聞リンクト vol.33タイアップ